

小松市埋蔵文化財調査だより

－ 平成9年度の埋蔵文化財発掘調査 －

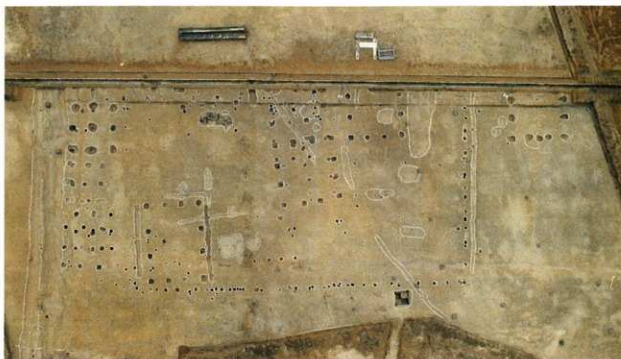
第8号 1998.3.31

小松市教育委員会

〒923-8650

埋蔵文化財調査室

石川県小松市小馬出町91番地
TEL (0761) 22-4111



佐々木遺跡

平成9年度調査区域全景

佐々木遺跡では、奈良時代頃の掘立柱建物跡と、これらを囲む櫓列・溝の跡が見つかりました。上の写真からも遺跡の様子がうかがえます。3間×3間の建物跡が数棟と、その西側に2間×2間の総柱の倉庫の跡が南北に並んでいます。さらに、この建物群を囲むように南側と東側に櫓跡、西側に溝の跡があります。これらの建物群は、配置などを考えた上で、向きを合わせて建てられたと思われます。この他に、鍛冶炉跡や井戸の跡なども見つかっていました。

今回の調査で見つかった井戸跡は、横板井籠組の井戸枠（長方形の板を井の字型に数段組み上げた井戸枠）を持っており、大きさは井戸枠の内側で約125cmと、北陸のこの時代の井戸としては最大級のもです。大型の横板井籠組の井戸は、役所などの公的な施設や有力者の居館等に伴う格式の高い井戸と考えられています。このような大型の井戸の存在からも、佐々木遺跡が一般の集落遺跡とは性格が異なることが分かります。



調査中の井戸

やさとむかいやまいせきぐん

八里向山遺跡群の調査

所在地 小松市上八里・下八里町内

調査期間 平成9年4月2日～9月10日

調査面積 4,700㎡

原因 住宅団地造成事業

遺跡の概要 遺跡は、小松市の北縁、寺井町との境界はしる東部丘陵地に位置しています。北の寺井町泉台団地を背に、南の鍋谷川が流れる谷平野に向かって尾根筋が並び、集落跡や古墳群、窯跡など多種多様な遺跡が展開しています。これらは平成4年に住宅団地造成に先立つ分布調査で発見されたものです。当初は8遺跡でしたが、本年度の最終調査で2遺跡が新たに加わりました。これに伴って、当初の遺跡名称を若干変更・整理し、八里向山A～Jの10遺跡が確定しました。遺跡の所属時期も、旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世と、ほぼ全時代が揃っており、北陸でも屈指の遺跡群となりました。

調査の概要 平成5年度末に始まった遺跡群の調査は、本年度のA・H・I・J各遺跡の調査をもってすべて完了したことになります。

A遺跡は、昨年度はからの継続調査で、弥生時代後期（約1800年前）の集落跡です。竪穴住居跡が2軒（内1軒は焼矢家屋）、掘立柱建物跡が14棟発見されています。竪穴住居跡は、地面を掘りくぼめて壁および床をつくりだし、地面を直接茅葺き屋根が覆うようなかたちで復元されます。本遺跡では円形で直径が10mを超す特大サイズです。壁寄りに8本の柱を等間隔にめぐらせ、さらにその内側中央部に4本の柱を四角く配した頑丈な構造となっています。2号住居跡では、周りに土堤と溝を設けて降雨による水の進入を防ぐ工夫もな

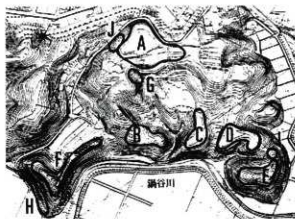


2号竪穴住居跡

(床面積約30坪。20人以上入っても余裕の広さ！)



八里向山遺跡群の位置 (1/25,000)



八里向山遺跡群遺跡分布図

されていました。掘立柱建物跡は、方形に配した柱に直接壁が取り付け建物で、本遺跡では梁行1間×桁行2間（柱6本長方形）を基本とします。しかし中には、桁行寸法が同じでありながら、片側が2間で、対する側が柱1本多い3間という珍しいものもあります。また、平行する2本の溝を掘り、その中に柱を立てて桁の柱列とする「布掘り式」と呼ばれるものも2棟含まれます。頑丈な基礎を必要とする高床式の倉庫が想定されます。

弥生時代といえば、稲作が盛んに行われている時代です。それが丘陵の高台に集落を構えたのは、この時期、耶馬台国に代表されるようにクニが多



11号掘立柱建物跡

(桁行の右側が2間、左側が3間の特殊な柱配置)



2棟並んだ布掘り式掘立柱建物跡

数分立し、村の防御が必要とされる不安定な情勢であったことを反映しているのかもしれない。A遺跡は、広大な敷地に特大の住居と倉庫群を構えており、その一方で中小の住居が見られないと



I遺跡の須恵器窯跡



J遺跡の須恵器窯跡

よし たけ い せき 吉竹遺跡の調査

所在地 吉竹町地内
調査期間 平成9年4月2日～継続中
調査面積 3,908㎡
原因 土地区画整理事業
遺跡の概要 吉竹遺跡は、弥生時代後期から古墳時代の集落跡です。木場湯の北東方向に位置する台地上にその集落跡があり、台地周辺の低湿地においても、その時代の遺物が出土しています。

平成7年度から調査が行われており、調査対象総面積15,000㎡の内、14,350㎡を完了しています。調査の概要 今年度は、台地部分で3,648㎡、低湿地部分で260㎡の調査を行ないました。

台地部分では、堅穴住居跡3軒、掘立柱建物跡

いう特殊な構成です。周辺の丘陵にある同時期の防御集落を統括する、いわば「本丸」ともいえる性格を持っていたのではないかと考えられます。

I・J遺跡はともに、「須恵器」と呼ばれる陶器質で堅く灰色をした焼き物を焼く地下式トンネル状の登り窯跡です。J遺跡の窯は全長10m、7世紀中頃（飛鳥時代）に操業していたもので、能美地域では最古の調査例となります。一方、I遺跡の窯は全長7.8m、8世紀中頃（奈良時代）に操業していたものです。窯の山側を取り巻くように溝が設けられています。

H遺跡は、工事中に発見、急速調査することになった北陸最大級の中世墳墓群です。本遺跡については〈小松の重要遺跡・遺物⑧〉で解説します。



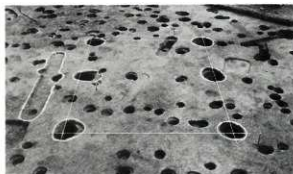
吉竹遺跡の位置 (1/25,000)

25棟が見つかりました。堅穴住居跡は、ほとんど破壊されてしまっており、1棟（弥生時代末ごろのもの）だけ住居跡の床面がなんとか残っていた状態で見つかりました。掘立柱建物跡は、吉竹遺

跡が立地している台地の西側、低湿地に臨んでいて、このあたりが吉竹遺跡の中心的な場所だと考えられます。掘立柱建物跡のなかには、「布掘式掘立柱建物」という、弥生時代の後期に見られる建物の跡や、直径80cm、深さ約1mの柱穴をもつ、倉と考えられる建物跡（弥生時代後期のもの）がありました。倉と考えられる建物跡の横には建物に付随するようにして溝があり、もしかすると、建物の屋根に降った雨がこの溝のところに落ちていたのかもしれない。



掘立柱建物の復元図



掘立柱建物（倉）跡

高堂遺跡の調査

所在地 小松市高堂町内

調査期間 平成9年10月27日～12月26日

調査面積 125㎡

原因 個人住宅建設

遺跡の概要 高堂遺跡は、能美平野の北部地域の微高地に位置し、北には手取川によって形成された扇状地が広がっており、南には梯川の支流である八丁川が流れています。

過去に、石川県立埋蔵文化財センターによって発掘調査が行なわれており、弥生時代後期から室町時代までの集落跡が見つかっています。今回の調査はその東側にあたり、平成6年度の小松市教育委員会によって遺跡の分布が確認されていた区域内で、個人住宅の建設に伴い行われました。

調査の概要 今回の調査を行なった箇所は、現代の耕作による擾乱を受けていて、遺構の残存状態が



堰の跡

昨年度3月のことになりますが、すでに知られていた吉竹遺跡の範囲から北へ約250mはずれたところで、古墳時代中頃の堰の跡がみつかりました。溝（もしかすると川？）に流れていた水をこの場所でせきとめ、この付近のどこかに水を流していたことになり、その水は、稲作を行なうために使われていた可能性があります。とすると、この付近にまだ見つからない水田の跡があるかも知れません。この堰の跡は、現在使われている県道の下に一部かかっており、調査可能のところだけで幅約5mあり、長さ5m以上の丸太の木を2本重ねるようにして溝にわたし、その丸太の木の前後に枕状の板材が打ち込まれてありました。県内で堰の跡が見つかった事例は非常に少なく、県内ではこの堰で5例目になります。



高堂遺跡の位置（1/25,000）

あまり良くなかったものの、溝4条、土壇7基の他に調査区縁辺部にあたり建物復元できなかった柱列も含めて掘立柱建物跡4棟が確認されました。

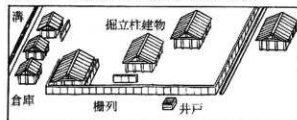
出土遺物は、古墳時代の土師器のほか、若干の須恵器、中世の輸入陶磁器の青磁などが極少量ありました。

佐々木遺跡の調査

所在地 小松市佐々木町地内
調査期間 平成9年5月6日～継続中
調査面積 1,900㎡
原因 一般国道8号小松バイパス建設工事
泉管かんがい排水事業

遺跡の概要 佐々木遺跡は、JR小松駅から東へ約3.5kmの佐々木町地内、梯川左岸の微高地上に位置します。周囲には数多くの集落遺跡があり、この地域が人々の生活に適していたことがうかがえます。佐々木遺跡も、平安時代の集落遺跡と考えられていましたが詳細は不明でした。今回の調査で、遺跡の内容が明らかになると考えられます。

発掘調査は今年度から始まり、調査対象面積が7,800㎡、平成10年度に完了する予定です。



佐々木遺跡予想復元図



板塀で囲まれた建物跡

額見町遺跡の調査

所在地 小松市額見町地内
調査期間 平成9年4月14日～継続中
調査面積 7,700㎡
原因 土地区画整理事業

遺跡の概要 額見町遺跡は、飛鳥時代から平安時代末期まで営まれた約250,000㎡の範囲に広がる大規模な集落遺跡です。古代の額田郡ではないかと予想される遺跡です。



佐々木遺跡の位置 (1/25,000)

調査の概要 今年度の調査では、奈良時代頃の掘立柱建物・溝・土壇・井戸・鍛冶炉等の跡を確認しました。復元図のように建物はどれもほぼ南北を軸として建っていたようです。中には周りを板塀で囲んでいたと思われる建物跡(写真)も見られます。そして、これらの建物は、西側の溝、南と東側の櫓列で囲まれていたと考えられます。

櫓列の南側からは、大型の井戸跡が見つかりました。横板井籠組の井戸枠(長方形の板を井の字型に組み上げた井戸枠)を持ち、大きさは枠の内側で約125cmもあります。この時代の井戸としては、北陸では最大級のもです。

遺物は、主に須恵器や土師器が出土しています。その中には、赤く塗られた土器・墨痕のある埴・埴の蓋を転用した硯などもあります。これらの遺物は、一般の集落ではあまり見られないものです。また、籾の羽目・鉄滓・砥石等も出土しており、当遺跡内で鉄器の生産が行われていたことが推測されます。

佐々木遺跡は、建物の配置や規模・大型の井戸・出土した遺物等から判断すると、倉庫群や工房等を伴う、奈良時代頃の公的な性格を持った施設の跡と考えられます。

発掘調査は平成7年から行われており、これまでで、13,200㎡を完了しています。

調査の概要 今年度は遺跡の北西部にあたるB地区の調査を行いました。遺構はかなり重複しており、堅穴住居跡を43軒、掘立柱建物跡を76棟、土器を捨てたと思われる大型の土壇を12基、土師器焼成壇を5基、平安末期頃の製鉄鍛冶炉を4基、同じく平安末期の土器の捨て場所と思われる跡を確認しました。

昨年と同様に暖房機能を兼ね備えたカマド(オ



額見町遺跡の位置 (1/25,000)

ンドル状遺構)をもつ堅穴住居跡が5軒見つかり、飛鳥時代の前半から後半まで確認されます。このような堅穴住居は朝鮮半島などで発見されている住居で、額見町遺跡に渡来人が住んでいたことを示しています。また、掘立柱建物と堅穴住居の複合形態をもつ、柱を壁沿いに立てるタイプの堅穴住居跡が3軒見つかっています。

数多い検出となった掘立柱建物跡ですが、ほとんどが主軸を北に向けて建てられていたようです。の中には倉庫跡も含まれますが、倉庫跡は掘立柱建物跡とは離れた場所に集中して群がって検出されています。律令政治によって区画され、強く支配管理されていたことがうかがわれます。

また、土師器を焼いたと思われる跡が5カ所から見つかっています。土師器は野焼き方法の流れを組む簡単な土器焼きでつくられるのですが、

7世紀後半と、10世紀のものであることがわかっています。このような土師器焼成は、どこでも行われていたわけではなく、地域の中心となる大きなムラで行われていたようです。



オンドル状遺構をもつ36号堅穴住居跡



かなり重なりあう遺構跡

ようかいち じかた いせき 八日市地方遺跡の調査

所在地 小松市日の出町地区

調査期間 平成9年4月7日～継続中

調査面積 7,500㎡

原因 土地区画整理事業

遺跡の概要 八日市地方遺跡はJR小松駅の東側に位置し、約78,000㎡の範囲に広がる弥生時代中期の集落です。一帯は低湿地で、「地方」の名が示す通り、江戸時代、八日市町の商人らの資本により開墾された土地です。昭和5年に遺跡の存在が確認されて後、小規模な調査が行われ、この時見つかった土器が「小松式土器」と呼ばれています。

小松駅東土地区画整理事業に伴い、平成5年より発掘調査が行われており、これまでに26,000㎡の調査を完了しています。

これまでの調査で井戸跡・住居跡・方形周溝墓・

自然河川跡などが確認されていることから、居住区、工房域、墓域を備えた弥生時代中期の北陸の中核的な集落であることがわかっています。

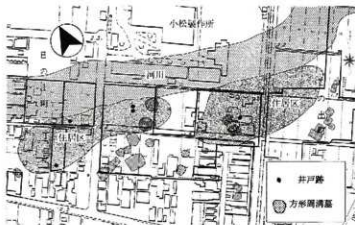
調査の概要 調査も4年目にあたり、遺跡の全体像が少しずつ見えってきました。居住区は自然河川に沿うように営まれ、周囲には墓域が広がっている



ほうけいしゅうこうぼ
方形周溝墓

たようです。また、この自然河川跡の調査では、河川の左岸のみが確認されています。河川は蛇行し、何度も流れを変えていたようです。そのため水の流れにより侵食されたと思われる一部の川岸は凹地となりよどんだ状態でした。今年度はこの河川跡の凹地を調査し、その結果これまで見つかった量をはるかにうまわる多量の木製品が見つかりました。その中には農具・紡織具・漁具・食具・武器・祭祀具・建築部材など多種多様なもの

が含まれています。これらの製品の他、加工途中のものをはじめとして、木材なども足の踏み場がないほど集中して出土していることからこの近くに木製加工の工房が設けられていたことが考えられます。



八日市地方遺跡概念図 (1/4,000)



多量の木製品等が見つかった河川跡

平成9年度 埋蔵文化財調査事業一覧

発掘調査	遺跡名	所在地	調査期間	原因	時代	調査面積㎡
	八里向山遺跡群	上八里町	4月2日～9月10日	住宅地造成 (民)	弥生・古墳・鎌倉	4,700㎡
	吉竹遺跡	吉竹町	4月2日～継続中	土地区画整理 (民)	弥生・古墳	3,908㎡
	八日市地方遺跡	日の出町	4月7日～継続中	土地区画整理 (市)	弥生	7,000㎡
	額見町遺跡	額見町	4月22日～継続中	土地区画整理 (市)	奈良・平安	7,700㎡
	佐々木遺跡	佐々木町	5月6日～継続中	小松バス・かんが池水 (国・県)	奈良	1,900㎡
	高堂遺跡	高堂町	10月27日～12月26日	個人住宅建設 (民)	古墳・中世	125㎡
試掘調査	開発行為名称	所在地	開発面積	調査日	備考	
	公民館建設事業 (民)	矢田新町	861㎡	6月9日	埋蔵文化財は確認されず	
	共同住宅建設事業 (民)	旭町	327㎡	8月9日	本折城跡を確認、盛り土保存	
	会社造成事業 (民)	今江町	5,312.74㎡	8月30日	埋蔵文化財は確認されず	
	宅地分譲事業 (民)	今江町	6,012㎡	8月30日	縄文の遺跡を確認、今後の協議にて対応を計る	
	宅地造成事業 (民)	御船町	691.64㎡	8月31日	中世遺跡を確認、現状保存	
	住宅地の分譲事業 (民)	村町	5,813.43㎡	9月20日	埋蔵文化財は確認されず	
	土砂取事業 (市)	今江町	2334.07㎡	10月2日	埋蔵文化財は確認されず	
	タクシー営業所及び自動車庫建設事業 (民)	今江町	1,455㎡	10月10日	埋蔵文化財は確認されず	
	宅地分譲事業 (民)	吉竹町	684㎡	12月9日	埋蔵文化財は確認されず	
	店舗及び自動車修理工場建設事業 (民)	河田町	1,204.91㎡	12月15日	埋蔵文化財は確認されず	
	宅地造成事業 (民)	矢田野町	938㎡	1月23日	埋蔵文化財は確認されず	
	住宅建設 (民)	月津町	2,474㎡	3月2～6日	古墳を確認	
	店舗建設 (民)	一針町	2,066.06㎡	3月4日	埋蔵文化財は確認されず	
	道路建設 (市)	土原原町	15,300㎡	11月13日 3月10日	一部中近世の遺構を確認	
	土採取 (民)	黒川町	9,966.13㎡	3月24～29日	古墳を確認	

小松の重要遺跡・遺物⑧



八里向山H遺跡の中世墳墓群

本遺跡は、遺跡群再南端、鍋谷川を臨む丘陵裾南斜面に造営された鎌倉時代から南北朝時代にかけての中世墳墓群です。総数100基を超える北陸最大級のもので、内約40基を発掘調査しました。

墳墓の形態は、石を方形に組んで造る集石墓がほとんどです。斜面に平坦面を階段状に造り出し、各段にまず1基造った後横方向に追葬していくかたちで帯状の墓群が形成されています。葬法は火葬による納骨が主で、火葬骨が区画内の小さな穴に納めてあるものでは、曲物等有機質の骨蔵器を使用していた可能性があります。陶器製の骨蔵器は少なく、数個体分の破片が散乱した状態で発見されています。区画の下に火葬施設と考えられる大型の土壇が設けられているものがありました。土壇の底に人頭大の石を敷き、その上に棺を置いて火葬を行い、その後人骨を拾い集めて一部を改めて埋葬していたようです。土壇を埋めるときに、土師器皿と短刀と一緒に納めていました。その他に、数枚の銅銭などが副葬された例もあります。また、供養塔や墓標として墓上に立てられていた五輪塔が倒れた状態で数多く発見されています。

昨年度調査したこの丘陵頂上には、四辺を石で区画し、盛土及び石積みをした県内最大級の中世墳墓がありました。その被葬者として、古い文献にみえる「弥里殿」という在地豪族が想定され、今回発見された墳墓群はその一族の墓域とも考えられます。



12-C-4号墓全景(上)
と、その下位から検出
された火葬土壇(下)